

響の森「棚田プロジェクト」と連携した棚田の魅力の情報発信

氷ノ山自然ふれあい館響の森が取り組む「棚田プロジェクト（中国四国農政局後援）」のイベントで「棚田ブース」を設置し、若桜町つく米（よね）棚田の保全に対する理解醸成を図った。

○ 施策分類

棚田地域振興関係

○ きっかけ・背景、課題の把握

棚田地域振興法に基づく「指定棚田地域」の指定地域が全国に広がる中、鳥取県内の指定はゼロと登録が進んでいないため、3年前から拠点内でチームを組み、県・町、学生ボランティア、棚田関係者との意見交換を重ね、課題等の把握を行ってきた。

認定には協議会の立ち上げや活動計画の策定が必要で、過疎化・高齢化が進む棚田地域にとってはハードルが高く、窓口となる町も積極的になっていない。このため、棚田保全に対する理解醸成に継続的に取り組むこととした。

○ 取組の内容

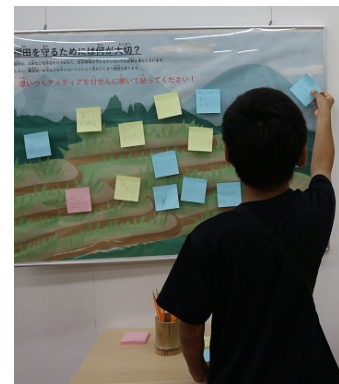
「つなぐ棚田遺産」に認定された若桜町つく米（よね）棚田の保全に対する理解醸成を図るため、「棚田プロジェクト」の田植えや収穫祭、「山フェス2024」のイベントで「棚田ブース」を設置し、棚田の重要性を直接伝える等の情報発信を行った。また、棚田展では、棚田の様々な働きや棚田での米作りの様子を紹介するパネル展示を行った。

○ 効果・成果、今後の方向性

イベントの参加者に棚田のアンケートや棚田を守るためのアイデアを出してもらったところ、日本の原風景である棚田の景観保全へ関心の高さが分かる結果となった。今後も中山間地域の生産者等との意見交換やイベントを通じて、棚田の情報発信に努める。



県外の大学生に棚田の魅力を伝えるスタッフ



棚田を守るためのアイデアをパネルに貼り付ける子ども

体制図

